

新しい
コミュニティ通貨の
誕生

マネー崩壊

ベルナルド・リエター 著

小林一紀 訳

福元初男

加藤敏春 解説



0931
181

新しい
コミュニティ通貨の
誕生

マネー崩壊

ベルナルド・リエター 著

小林一紀 訳
福元初男
加藤敏春 解説



B11377564

RB

日本経済評論社

01 年 06 月 07 日

〔訳者紹介〕

小林 一紀 (こばやし かずのり)

1976年東京生まれ。カリフォルニア大学バークレー校環境経済政策学部卒。

現在 デジタル・スカウト代表

<http://www.d-scouts.com>

福元 初男 (ふくもと はつお)

1965年東京生まれ。国際基督教大学大学院行政学研究科博士前期課程修了。

ファイナンシャル・プランナー (日本ファイナンシャル・プランナーズ協会会員)。

現在 Ecosearch.Net (エコサーチ・ドット・ネット) 代表

<http://www.eco-search.net>

〔解説者紹介〕

加藤 敏春 (かとう としはる)

1954年新潟県生まれ。1977年東京大学法学部卒業。

現在 エコマネー・ネットワーク代表、関東通商産業局総務企画部長

主著 『シリコンバレー・ウェーブ——次世代情報都市社会の展望』(NTT出版, 1997年), 『エコマネー——ビッグバンから人間に優しい社会へ』(日本経済評論社, 1998年), 『創業力の条件——チャンスに満ちたマイクロビジネスの時代へ』(ダイヤモンド社, 1999年)他。

マネー崩壊——新しいコミュニティ通貨の誕生

2000年9月1日 第1刷発行

定価(本体2,300円+税)

著 者 ベルナルド・リエター

訳 者 小 林 一 紀
福 元 初 男

発行者 栗 原 哲 也

発行所 株式会社 日本経済評論社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-2

電話03-3230-1661 FAX 03-3265-2993

装丁・鈴木 弘

印刷・新栄堂 製本・協栄製本

©K. KOBAYASHI & H. FUKUMOTO 2000

ISBN4-8188-1305-2

Printed in Japan

乱丁本落丁本はお取り替えいたします。

本書を読むにあたって——ジョージ・ソロスのメッセージが残したもの——

「アメリカ発の世界金融恐慌か」——。

二〇〇〇年四月十五日、この最悪のシナリオが多くの市場関係者の脳裏をかすめた。ワシントンで開催されたG7（先進七カ国蔵相・中央銀行総裁会議）の前日、アメリカ株式市場が急落した。九五年以降の情報化・グローバル化を最も象徴しているNASDAQ（アメリカ店頭市場）の総合指数が、前日比九・七％下落し、八七年一〇月のブラック・マンデーに次ぐ史上二番目の下げを記録した。ピーク時から実に三四％の下げは、グリーンズパンFRB（アメリカ連邦準備制度理事会）の言う「バブルの崩壊」の定義に該当する。当日発表された三月のアメリカの消費者物価が、前月〇・七％と予想を上回る上昇となったが、これは単なる引き金にすぎない。背後にある事態は、もつと深刻である。

問題の本質は、アメリカが必要とする経常収支の赤字四、二〇〇億ドルのファイナンスに対して、日本、欧州、アジアを合わせた資本輸出額は、せいぜい二、二〇〇億ドルにしかすぎないということである。これは九五年以降の「強いドル」政策以来、最大のかい離幅である（二〇〇〇年四月二日、IMF発表）。今のところ、そのギャップはオフ・ショア市場からの短期資金でまかなわれているが、ひとたび歯車が狂ったらどうなるのであろうか？。

本書の著者ベルナルド・リエター氏は、欧州共通通貨ユーロの誕生に深く係わった人物であり、現在は、アメリカのカリフォルニア大学バークレー校の客員研究員として地域通貨の研究に携わるかたわら「グローバル基準通貨」構想を実現すべく世界各国を訪問して活動を展開している。私とは、昨年九月リエター氏が日本を訪問した際、訳者である小林一紀氏を介して会って以来、地域通貨や世界の資本主義のあり方などについて意見交換をして、親交を結んでいる。リエター氏の活動の詳細は、インターネットでも公開されているので、是非参照いただきたい (<http://www.transaction.net/money>)。

本書の問題意識は、「新千年紀」を迎えるにあたり、われわれはマネーの在り方を根本から問直さなければならぬのではないか、ということである。この問題意識の根底には、単一化の方向に向かう貨幣部門のマネー経済化の流れと、多様化に向かうボランティア経済の流れの相克がある。その中で「持続可能な社会をどうやってつくりあげるのか？」とリエター氏は問いかけている。

実は、この問題意識はジョージ・ソロスの『グローバル資本主義の危機』（九九年、日本経済新聞社刊）においても同様に見られる。カール・ポッパールの「開かれた社会」の実現を理想とするソロスは、グローバル資本主義の矯正の必要性を訴えるとともに、「本質的価値は、金銭的に計量することはできない。われわれは他の幸福度を測る何らかの目安を必要としている」と指摘している。九九年、国際的なヘッジファンドであるソロスがこのような問題提起を行ったことは世界の耳目を集めたが、ソロスの議論は単に問題提起にとどまっており、解決のため必要となる処方箋については何ら言及していない。本書は、その処方箋を大胆かつ新鮮な形でわれわれに提示している。その点で本書は画期的な意義を持つている。

読者の皆さんには、このような期待感を持ってリエター氏の処方箋をお読みいただきたい。また、本

書の最後に『二一世紀のマナーに未来はあるか?』と題する解説をつけて、日本での「エコマナー」(ボランティア経済の自立化を促進するもう一つの貨幣)の動向等についても紹介しているので、お読みただけは幸いである。

二〇〇〇年六月一五日

加藤 敏 春

マネー崩壊——目次

本書を読むにあたって——ジョージ・ソロスのメッセージが残したもの	1
まえがき——この本はあなたにどう役立つか	1
読者との三つの約束	1
私の視点について	4

第Ⅰ部 お金と自分

第Ⅰ部の概要	12
--------	----

第一章 自分のお金	15
-----------	----

1 この世界における「自分の」お金	15
-------------------	----

2 銀行はどのように機能する?	17
-----------------	----

銀行業による「近代式マネー」はどうやって始まった?	17
---------------------------	----

近代式マネーの秘密	18
-----------	----

3 自分の蓄え——価値を貯める	20
-----------------	----

お金の成績表	22
--------	----

外国為替市場	25
--------	----

4 中央銀行とその他の「消防士」たち	33
--------------------	----

中央銀行はどこから来た？	33
お金の「家族写真」	34
超国家レベル	35
マネーシステム	38
不安定性の恒常化——安定か不安定か、それが問題だ	39
スタート地点へ戻って	42
第1章 今日のお金	48
1 単純な問い	50
お金の歴史	51
信用ゲーム	53
なぜお金はモノではないか	55
現実世界で役に立つお金の定義	56
2 今日のお金	59
重要な四つの設計デザイン	60
利子の影響	66
3 次には何が来る？	73

第三章 サイバー・ワールド——新たなお金の歩み	77
1 情報の性質	78
2 経済と社会への影響	81
情報革命のプラス面	82
情報革命のマイナス面	83
3 マネーへの影響	86
決済システム	86
新しいマネー	88
4 銀行と金融サービスへの影響	88
第四章 未来への五つのシナリオ	93
1 「予想された未来」シナリオ	94
「予想された未来」が実現しない二つの理由	95
2 「企業支配のミレニアム」シナリオ	98
移行のタイム・テーブル	105
どうしてこんなことが起こりうる?	107
情報時代から企業支配のミレニアムへ	110
3 「閉鎖的なコミュニティ」シナリオ	116
「閉鎖的なコミュニティ」の原動力	120

4 「生き地獄」シナリオ

..... 123

5 「持続可能な豊かさ」シナリオ

..... 133

第Ⅱ部 自分のお金を選ぶ

第Ⅱ部の概要

..... 146

第五章 仕事を可能にする通貨

..... 148

1 大きな違い——雇用と仕事

..... 151

2 わたしが失業者?

..... 151

今日の失業問題

151

ダウンサイジングの時代

153

社会や政治へ与える影響

158

これまでの解決法

163

次なる社会的・政治的問題

166

3 一九三〇年代、選ばれざる道

..... 169

ドイツのヴェーラ・システム

172

ヴェルグルのスタンプ券

174

米国の恐慌券

176

政治的教訓

178

4	今日のシステム……………	181
	LETS (レッツ)……………	183
	WIR (ウィア)……………	186
	地域活性化通貨……………	187
	エコマネー……………	189
	中小企業の資金繰り……………	191
第六章	コミュニティをつむぐ通貨……………	198
1	コミュニティの崩壊……………	199
	コミュニティをつむぐことと「贈与経済」……………	200
	地域コミュニティはこう崩壊する……………	202
2	コミュニティをつむぐ通貨……………	204
	タイムダラー……………	206
	イサカ・アワー……………	209
	ペン・エクスチェンジ……………	212
	クリティバ——ブラジルの第三世界ではない町……………	215
	日本の健康ケア通貨（ふれあい切符）……………	218
	統合された通貨デザイン——ミネアポリス市のコモンウィール社……………	220

第七章	コミュニティ通貨と中央権力	227
1	補完通貨と法律と税	228
	中央銀行の反応	229
2	今日にも役立つ一九三〇年代の教訓	235
第八章	グローバル基準通貨——お金を持続可能にする	237
1	近代マネーシステムの功績	239
2	生物圏の現状	240
3	三つの説得法	241
4	マネーシステムと時間感覚、そして持続可能性	243
	未来を「割引く」	245
	利子との関係	248
	遠くまで見える眼鏡？	250
5	グローバル基準通貨 (Global Reference Currency) と「テラ」単位	252
	理論性と現実性	255
6	企業活動としてのグローバル基準通貨	259
	パートナー（物々交換）の基準を創る	259
	国際的な価値基準	260
	恐慌の危機に対する処方箋	261

第九章 持続可能な豊かさへ向かって

1 持続可能な豊かさとは？

2 経済の全体像を捉える

道教的視点——バランスへの道

補完的な「陰陽」の通貨タイプの位置づけ

3 持続可能な豊かさを導くマネーシステム

4 二〇二〇年のマネーシステムは四段ギアで

グローバル基準通貨

三つの多国籍通貨

国家通貨・地域補完通貨

エピローグ、そして序奏へ

解説——二一世紀のマネーに未来はあるか？

1 問題の所在——マネー経済化と多様化の相克

2 ボランティア経済の自力化へ

3 エコマネーの登場——二一世紀の「共」の創造へ

4 貨幣経済の矯正——節度あるポスト・グローバル資本主義へ

5 「ハイパーテキスト型社会構造」の実現	329
-----------------------------------	-----

訳者あとがき	337
--------------	-----

本書のホームページ www.moneycafe.net
 で著者・訳者からのメッセージと関連文
 書をご覧になれます。

まえがき——この本はあなたにどう役立つか

「水」とは何だろうか？ それを理解するのが一番困難なのは、実は水の中に住んでいる魚かもしれない。それでは、「お金」とは何だろうか？ そして、それを理解するのに一番大変なのは誰だろうか？ それは、お金のなかに住んでいる私たち人間だ。私たちは、体力、気力、精神力を注いで人生の大半をお金を得ることにあくせくする。けれども、お金とはそもそも何なのか、それがどこから来るのか、私たちに何をしているのか、本当に理解しているだろうか？

読者との三つの約束

- 一、あなたがこの本を読み終える頃には、次の質問に対するあなたなりの解答がみつかる。
- なぜ、本当に人間らしい意義のある仕事はなかなか見つからないのか？
- 科学技術と生産性が高まることによって、余暇に使える時間が多くなるとよく言われるのに、なぜ実際には忙しくなるばかりなのか？
- なぜ、経済的に豊かになればなるほど、人との繋がりがや共同体のぬくもりが感じられなくなるのだろうか？

● なぜ、お金の奴隷になってしまいう人がこれほど多いのだろうか？

● なぜ、国際金融システムはますます不安定になってきているのだろうか？ それがいいたい自分にとって何を意味するのだろうか？

二、お金の世界が本当はどうなっているのか、はつきりわかる。

これは子供の頃、性の世界が本当はどうなっているのかについての初めての会話と似ている。お金の正体は、あなたの心に衝撃を与えずにはおかない。昔、西洋では「性」「死」そして「お金」の三つはタブーとされていた。一九六〇年代、米国で起きた「性解放運動（セックス・レボリューション）」によって「性」はタブー視から解放された。また「死」も、一九八〇年代にエイズが蔓延した結果、現実には直視されるようになっていく。そして二一世紀の初頭には、世界の不安定化した金融の問題によって、私たち人類は「お金」という最後のタブーと向き合あわなくてはならなくなっている。

この本は、工業時代から情報時代へ向かってお金の旅をしていくあなたのドライブ・マップだ。

この本は、現在お金が社会のなかでどのように扱われているのかに焦点をあてながら、現行のマネーシステムが抱えている良い面と悪い面を発見するガイドとして、楽しく驚きにあふれた小話を織り交ぜながらあなたを導いてゆく。

三、これまでとは全く違う視点を持って今までは違った方向に、進むことができると感じる。

私たちは、心の中にある「協働」と「競争」への欲求を見事に調和し、みんなが豊かになれる社会をつくりだす可能性を持っている。それは、「持続可能な豊かさ（Sustainable Abundance）」を実現すると

いうことである。これが単なる机上の空論ではないことは、米国における株価の異常な乱高下や、すでに三大陸でおきた金融システムの破綻といった、予断を許さない変化と不安定のさなかで、「お金」を根底から変革するものが静かではあるが確かに進行していることからわかる。この本で「補完通貨」と呼んでいるもの（コンプリメンタリー通貨）がそれである。国家が発行する通貨とはまた別に、世界で一九〇〇を越えるコミュニティが独自に通貨を発行しはじめている。この本では、それがいかに雇用、温もりのある共同体、地球の存続性を促進しているかを明らかにしよう。

これまで国家によって管理されてきた通貨を補完し、サポートしながらわれわれを長年悩ませた問題を促進する。競争が激しくなる一方の社会で、もっと人々が協力して温もりのある共同体をつくったり、自然と共生関係を築いたりというように、「他人と協力して何かにとりくみたい」というわれわれの内なる思いが、未来を創造していくうえで大切であることを男性も女性も気づいている。これまでの経済では、「競争が最も大切だ」という価値観があまりにも強く支配してきた。今後、「協働も大切なのだ」という新しい価値観が社会的立場を得て、競争一辺倒へと傾っていた世界のバランスを回復していくために補完通貨は重要な鍵となる。補完通貨のもとでは、これまでの通貨では起こりようがなかった取引や人間の関わり合いが可能になり、経済と社会の新しい富が生まれてゆく。こうして、新しい経済が誕生する。私たちは、この新しい未来の一部を担って、豊かさ持続する世界を生み出して行くことができるはずだ。

私はこれから、わかりやすい言葉使いを心がけて、今後二〇年間にわれわれが進むことのできる道の選択肢をあなたに示してみたいと思う。